

# yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より  
パソコン室から 不定期 発行

No.53

平成19年9月27日  
情報教育アドバイザー  
広田 さち子

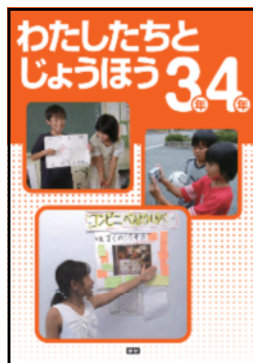
## 『私たちと情報』

これは、情報教育の「教科書」です。

情報教育ってなんだかわからない、いったい何をどう教えるのが「情報教育」なんだ？ 「情報教育」は何となくわかるけれど、どこから始めたらいいんだろう？ という場合に、この教科書に沿って授業をすれば、しっかり情報教育ができます。情報教育という教科がなく、学習指導要領もない中、これは一つの試みです。

これには、子どもが使う「テキスト」と、教師が使う「教師用指導書」がセットになっています。

授業では、この指導書を参考に、子どもたちに「情報教育」をすることになります。



今の、情報の氾濫する世の中で子どもたちが生きていくのに、どうしていったらいいのかを教えていかななくてはなりません。この教科書からは、教える内容が見えてきます。

漠然と、「情報教育」と「コンピュータ」とをくっつけて考えていませんか？

ここでは、関連する教科や領域として、情報モラル、メディア・リテラシー、コンピュータ・リテラシー、ITを使わない情報教育、国語や社会といった教科などが並んでいます。つまり、必ずしもコンピュータを使うことが情報教育ではない、という意味です。

情報教育では、情報を扱うことを学びます。不用意に情報に身をさらすことなく、危険な情報から身を守ることも大切なことです。そして、最終的には、以前にも書きましたが、情報の向こうにいる「相手」とのコミュニケーションが適切にできることです。コミュニケーションというのは、**情報のキャッチボール**、とも言えます。相手に無理なく届くように投げて、投げられたものはしっかり捉える、これが自然に、確実にできて、しかも、「自ら必要なもの」を捕まえにいて、また、自分に必要かどうかを「判断して取捨選択できる」力をつけることです。

この教科書では、こういう「情報教育」を教えていけるようになっていきます。

では改めて、「情報」とは何でしょう？ あるいは、なぜ、「情報教育」が「コンピュータ」とくっついて考えられることが多いのでしょうか？ それがわかると、情報教育は構えてすることではない、ということがわかってくると思います。

『私たちと情報』（学研） <http://www.gakkenpc.net/new/joho/>